

# 岩手山の噴火警戒レベル

— 火山災害から身を守るために —

## 噴火警報等で発表する噴火警戒レベル

- 噴火警戒レベルとは、噴火時などに危険な範囲や必要な防災対応を、レベル1から5の5段階に区分したものです。
- 各レベルには、火山の周辺住民、観光客、登山者等のとるべき防災行動が一目で分かるキーワードを設定しています（レベル5は「避難」、レベル4は「避難準備」、レベル3は「入山規制」、レベル2は「火口周辺規制」、レベル1は「活火山であることに留意」）。
- 対象となる火山が噴火警戒レベルのどの段階にあるかは、噴火警報等でお伝えします。



岩手山を西側から望む

## ■岩手山 噴火警戒レベル3(入山規制)に対応した規制範囲



### 岩手山の火山活動について

岩手山では、1686年に山頂火口から、1732年に山腹火口（焼走り溶岩流）から、1919年に大地獄谷で噴火が起きています。また、1998年3月以降地震活動が活発になり、1999年からは西岩手山の大地獄谷や黒倉山から姥倉山にかけて噴気活動が活発になりました。

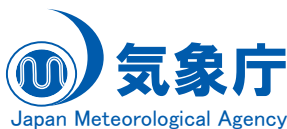
現在（平成28年4月）は、地震活動、噴気活動も静かな状況となっています。

凡例	
●	居住地域の境界
■	規制登山道
—	登山口等の入山規制箇所
○	想定火口

※特異地域とは居住地域より火口に近い地域を指す。



本冊子は、植物油インクを使用しています。



問い合わせ先  
 仙台管区气象台 地域火山監視・警報センター  
 TEL:022-297-8164 <http://www.jma-net.go.jp/sendai/>  
 ■盛岡地方气象台 TEL:019-622-7868  
<http://www.jma-net.go.jp/morioka/>



# 岩手山の噴火警戒レベル

			説明			
			火山活動の状況	過去の事例	住民の行動	登山・入山者
<b>噴火警報</b>	居住地域及びそれより火口側	5 (避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	1686年東岩手山山頂の噴火	危険な居住地域からの避難。	登山口から登山・入山規制
		4 (避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。	1732年東岩手山山腹の噴火(焼走り溶岩噴出)	警戒が必要な居住地域での避難準備。 (災害時要援護者、特異地域**及び特別に被害が予想される区域***の避難)	
<b>火口周辺警報</b>	火口から居住地域近くまで	3 (入山規制)	火口付近から居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	1919年西岩手山(大地獄谷)の水蒸気爆発 1998年4月29日短時間に多数の地震と規模の大きい地震が発生	通常の生活。 (状況に応じて災害時要援護者、特異地域**及び特別に被害が予想される区域***の避難準備)	岩手山西側(大地獄谷)の入山規制
		2 (火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	1998年3月17日火山性地震が増加し地殻変動開始	通常の生活。	
<b>噴火予報</b>	火口内等	1 (活火山であることに留意)	火山活動は静穏。		通常の生活。	自由に登山・入山可能

\* 「重大な影響」とは、この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶことを意味する。

\*\* 「特異地域」とは居住地域より火口に近い地域を指す。

\*\*\* 「特別に被害が予想される区域」とは、冬季の噴火において融雪型火山泥流が流下する危険のある滝沢市一本木地区砂込川沿いを指す。

上記の表は、平成19年10月29日「岩手山火山災害対策検討委員会」で了承されたレベル表を引用しています。

## 過去の事例

### 1686年東岩手山山頂の噴火

融雪型火山泥流により滝沢市一本木地区砂込川沿いの居住地域で一部家屋の流出。  
融雪型火山泥流の一部は川沿いに北上川まで流下。  
火砕流(火砕サージ)は火口から山麓(約4km)まで流下。  
噴石は火口から山麓(約4km)まで飛散。

### 1732年東岩手山山腹の噴火(焼走り溶岩噴出)

溶岩流は山麓まで流下。  
激しい地震活動、有感地震の多発。住民避難。

### 1919年西岩手山(大地獄谷)の水蒸気爆発

噴石は大地獄谷脇の登山道に飛散。

### 1998年4月29日短時間に多数の地震と規模の大きい地震が発生

短時間に多数の地震と規模の大きい地震が発生し、地殻変動に急激な変化。

### 1998年3月17日火山性地震が増加し地殻変動開始

火山性地震が増加し、地殻変動にも変化が現れ始める。